

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	大阪市西区新町1丁目1番17号									
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	ナガセテムテックス株式会社 代表取締役社長 毛利 充邦									
事業者の主たる業種	醗酵工業(1633)・医薬品原薬製造業(1651)・その他の有機化学工業製品製造業(1639)									
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））									
計画期間	20年 4月 ～ 23年 3月									
基本方針	ナガセテムテックス株式会社福知山事業所は、地球環境の保全が社会共通の重要課題であることを認識し、高機能な化学製品と技術の提供を通じ顧客の満足度向上に役立ちながら、事業活動の全域で環境保全に積極的に取り組み、地域社会と地球環境に貢献します。									
推進体制	ナガセテムテックス㈱エネルギー管理組織にて、経営者をトップに各事業所に省エネルギー委員会を設け消費するエネルギーの使用の合理化と温室効果ガスの排出削減を図ることを目的として活動。									
環境マネジメントシステム名称	ISO14001									
	適用範囲	事業活動、敷地内活動、組織								
	取得年月日	2006.6.19								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容							
	21～	全体	変圧器を低損失型変圧器に更新(合計3基)							
	21～	生産部門	220Kw高压コンプレッサー4基のと出圧力設定を変更							
	22～	全体	電力監視システムの導入							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）				
	A 事業所等排出区分	6,665.0 t	5,308.0 t	-20.4 %	5,262.9 t	-21.0 %				
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%				
	C その他排出区分	t	t	%	t	%				
	排出合計	*1 6,665.0 t	*2 5,308.0 t	-20.4 %	*4 5,262.9 t	-21.0 %				
実績に対する自己評価	～平成21年度の全体活動～ 省エネルギー委員会を中心に事業所としての省エネ推進体制の充実化が図れた。 一般従業員に対する省エネ教育の実施、各管理室および現場照明の昼休みの消灯の徹底。 また、「アイドリングストップ」等の環境対策への啓蒙など、全体活動として取り組めたと考えます。 ハード・ソフト両面を上向き組み合わせ、さらに充実した活動にしたいと思っております。									
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	第1工場	二酸化炭素換算 生産数量	2.532	2.026	-20.0 %	3.400	34.3 %			
	第2工場	二酸化炭素換算 生産数量	0.441	0.427	-3.2 %	0.490	11.1 %			
		二酸化炭素換算			%		%			
実績に対する自己評価	年間1%のCO2削減を目標とし、日々省エネルギー運動に取り組んでいく次第です。									
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）				
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t	
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t	
	削減量等合計			*3 t		*5 t				
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	*1 6,665.0 t	目標年度（計画）	*2 5,308.0 t	増減率（計画）	-20.4 %	報告年度（実績）	*4 5,262.9 t	増減率（実績）
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・高校生インターンシップにて環境教育を実施。									
特記事項										

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 注 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 注 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 注 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 注 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 注 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。